

平成28年度第10回中郷区地域協議会次第

日 時:平成28年12月21日(水)18時30分～
場 所:中郷区総合事務所 第4会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 自主審議事項について

…資料No.1

4 その他

5 閉 会

各委員から出された地域の課題

第9回地域協議会（H28. 11. 30開催）時

委員名	項目	課題の内容
高橋会長	[少子高齢化] & [人口流出]	<ul style="list-style-type: none"> 合併後、上越市においては全体で約1万人、人口が減少しているとのことである。中には、当然のことながら高齢化に伴う自然減もあるが、それ以外にも、若者が進学や就職を機に、上越市を去っていくケースがかなりあると聞いている。このため、人口流出の対処法について、少しずつでもまとめていく必要があると考えている。
	[農業振興]	<ul style="list-style-type: none"> 当区の農業は稲作が中心であり、耕作者の5年後、10年後を考えた時に、荒地を増やさないように何らかの手立てをしなければならないと感じている。
岡田(雅)副会長	[少子高齢化] & [高齢者の生きがい作り]	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が主な課題になると思われる。他にも様々な課題があるが、例えば環境にしても観光にしても、行きつくところは少子化対策に結びつくのではないかと感じている。また、空き家にしても同様で、中郷区に住んでみたいと思えるような状況にしないと、人口が増えない、子どもが増えないということになってしまう。 高齢化については、現在当区に住んでいる方々の経験や知識は財産だと思っているが、なかなか出てくる機会が無く埋もれてしまっている。生坂村のように、いろんな活動があれば、何かの機会にそれを引き出せるのではないかと考えている。
荒川委員	[農業振興]	<ul style="list-style-type: none"> 私の住んでいる町内会では、ほとんどの農業者が農機具屋などの業者に委託しており、個人では、片手間のできる者しか行っていない状況である。耕作しやすい優良農地は、大概が大規模に行っている業者に持っていかれてしまっている現状だが、例え小さな町内会であっても、中郷区の中で独自に支援ができれば、少しでも残っていけると思っている。そのようなところを中心に、考えてみたい。
岡田(龍)委員	[公共交通]	<ul style="list-style-type: none"> 乗合タクシーの利用率が低い状況が続いている。高齢者などからも、もっと乗合タクシーを使ってもらい、利用率を上げていく必要があると感じている。このままで行くと、乗合タクシー自体が無くなってしまいうような状況にもなりかねない。制度を持続的に継続するための仕組み作りは、地域ならではの課題であると思う。
坂田委員	[農業振興]	<ul style="list-style-type: none"> 当区は農業に対する生産、とりわけ稲作については生産組合や企業の参入によりどんどん収益を上げている地域と比べると、上越市の中でも非常に遅れている地域となっている。しかしながら、何か方法があり、対策ができると思っている。かつて盛んに働いていた人たちが、農産物を売り利益を上げられるような、目に見える形でもって何とか維持し、伸ばしていければと考えている。
竹内(昭)委員	[二本木駅]	<ul style="list-style-type: none"> 以前から思っていることだが、子供を車で二本木駅へ送る朝の時間帯は、人や車が多いのに対し、駅への進入路が狭いため流れが悪い。スイッチバックの駅としてPRしているため、交通や人の流れといったもろもろ含めて、何か、スムーズにできる方法はないだろうか。
竹内(靖)委員	[高齢者支援]	<ul style="list-style-type: none"> 振興会では、昨年度から市の委託事業である「地域支え合い事業」を受託し実施しており、少人数だが男性からも参加いただいている。また、新たな取組として、住民福祉会の事業で補助金を受け、買い物支援や高齢者向けセミナーなどの事業に踏み込むという状況になってきていることから、高齢者支援は少しずつ前に進んでいると感じている。
	[空 家] & [移 住]	<ul style="list-style-type: none"> 住める状態の空き家をどうしていくかということで、行政が行っている住宅リフォーム補助や移住の取組などと合わせ、振興会もホームページのリニューアルの中で、対策を充実していく必要があると思っている。 愛知県から当区に移住し、すでに4年経っている者や、スポーツ専門学校の男性4人が、シェアハウスとして住んでいると聞いている。同専門学校に通っている他の生徒も、区内でシェアハウスが可能な住宅がないか探しているそうだ。このような情報も、何かの形で情報共有していければと考えている。

委員名	項目	課題の内容
古川委員	〔子育て支援〕	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援については、昔ボランティアで何人かの仲間で子育て支援の会みたいなものを作ったことがあった。その後、会は自然に無くなってしまったが、例えばそんな先輩のお母さん達が集まって、子育ての相談に乗るなどの支援ができればよいと思っている。
	〔二本木駅〕	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日の新聞に二本木駅のおもてなしの記事が掲載されていた。長野県の人だったが、地域の人々からのおもてなしに、とても感激したとのことである。二本木駅を訪れた方々に感激を与え、喜んでもらえるのは素晴らしいことだと思う。人を掘り起こせば、いろんな力を皆さん持っているはずである。それを分科会みたいな形にして、協議会の委員が引っ張っていく事ができたらと考えている。
松井委員	〔二本木駅〕 & 〔通学路の維持管理〕	<ul style="list-style-type: none"> ・二本木駅でのイベントが増えているが、駅のトイレや道路、駐車場など、車いすでも利用可能なように整備する必要があると感じる。 ・坂本の踏切付近については、草が非常に茂っており、歩道を圧迫している。加えて、歩道橋は冬期間、凍結による転倒が心配される。
	〔観光振興〕	<ul style="list-style-type: none"> ・中郷区の観光施設については、妙高サンシャインランドなどで、年々集客率が減少している傾向が見受けられる。何か対策が打てないか。
松原委員	〔空き家〕 & 〔移住〕	<ul style="list-style-type: none"> ・視察研修で訪れた生坂村は、僅か人口1,800人程度の小さな村ではあるが、村のホームページには入居が即可能の家の件数をはじめ、間取りや金額、問い合わせ先などの空き家情報が漏れなく掲載されていた。また、先日、商工会の鉄道プロジェクトで千葉県のかすみ市に行ってきた。その中で、「移住者は全国どこでも引っ張り合いだから、一生懸命働きかけたところが勝つ。」という話があり、もったもな事だと思った。やはり、PR活動は移住者を呼ぶうえで大変重要な事だと感じている。
	〔高齢者の生きがい作り〕	<ul style="list-style-type: none"> ・同じく視察研修先の生坂村で、高齢者の生きがい作りの話があったが、これは農業や草刈りの問題などにも通じるものがある。例えば、畑の草刈りをしなければと思っても、1人で行うのはなかなか億劫になってしまう。様々な作業を、元気な高齢者が安い賃金で請け負ってくれる組合のようなものがあれば、非常に助かると思う。そのような人達が集まってくれるような組織づくりも必要ではないだろうか。
水嶋委員	〔空き地の維持管理〕	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時期は、草がほとんど枯れてきているので分からないが、夏場は非常に茂っており、防犯上の観点からも問題があると思われる。そのような箇所は、町内会長から地主へ対応を依頼できないのだろうか。
	〔中郷版電話帳再発行〕	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、NTTが発行している電話帳はとても細かい字で載っており、お年寄りにとっては使いづらいものである。これに対し、中郷区では平成17年頃まで独自で地域版を各家庭に配布していた。大きな字で見やすく、地図も載っていたため大変便利なものであった。あれから、すでに10年以上経っており、中には、その電話帳が無い家もあるだろうし、世帯主が変わった家もあるなどの不便が生じてきている。このため、電話帳を新たに編集し、再発行してもらえないものかと普段から思っている。
陸川委員	〔子育て支援〕	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援が、主な課題として挙げられる。何故ならば、上越市は子育てしやすい市だと感じているからである。一方、隣の妙高市では、保育園を一部無料にしていると聞いている。ところが、上越市にはそのようなものが全く見当たらない。それでも、中郷区は上越市の中でも、子育てしやすい地域だと思われるような環境づくりができればと思っている。
	〔農業振興〕	<ul style="list-style-type: none"> ・私の住んでいる地域は、昔は畑が盛んだったが、残念ながら今はほとんど耕作されていない状況である。現在、耕作しているお年寄りが亡くなれば、誰も作る人がいなくなるというような状況なので、この辺りを踏まえながら、農協を上手く活用していくのも一つの手だと思っている。
	〔特産品開発〕	<ul style="list-style-type: none"> ・当区にはこれといった特産物が無いので、新たに開発していく必要があると感じている。